

会議状況等報告書							報告者	永露 真佳			
会議の名称		令和3年度第3回大府市文化懇話会									
日時		令和4年2月10日(木) 15時30分～16時15分					場所	市役所003会議室			
出席者	委員	安田 文吉	加藤 武志	浅田 圭一	足立 結子	越後谷 卓司	小河 孝子	水田 雅穂	山内 副市長		
		○	○	○	○	○	○	○	○		
	事務局	信田 部長	田中 課長	大河内 係長	永露 主任	小田原 館長	内藤 事務局長	松井 館長			
		○	○	○	○	○	○	○			
傍聴者 1名											
内容											
<p>1. あいさつ</p> <p>◆座長あいさつ 感染症対策として、時間を短縮して行うので協力をお願いします。</p> <p>◆安田文吉先生あいさつ 小さな子どもたちにマスクを強要するのはお互いに表情が見えないので好ましくない。早くマスクをとって生活できるようになるとよい。</p> <p>2. 議題</p> <p>(1) 令和3年度下半期事業実績について</p> <p>・資料No.1-1、1-2、1-3に基づき事務局説明 (各施設からの補足)</p> <p>歴史民俗資料館)</p> <ul style="list-style-type: none"> 成田郷子氏の木版画展のワークショップでは通常木を彫るところを参加者の安全性を考慮し、発泡スチロールにボールペンで描いた。切り取って全員の作品を大きな絵に貼って完成し、非常に好評であった。 新居浜展は遠方から来館される方もいた。 <p>愛三文化会館)</p> <ul style="list-style-type: none"> 鈴木政吉生誕祭は鈴木バイオリン工場の大府移転に伴い今年から始めた企画。これまでバイオリンに係る文化は竹澤恭子さんのように頂きは高いところにあったが、裾野はそれほど広くはなかった。今後はこれまでの事業を活かしつつ、間口を広くして裾野をもっと広げていけるように試行錯誤しながらすすめていきたい。 <p>アローブ)</p> <ul style="list-style-type: none"> おでかけアローブは市内小学校に訪問し津軽三味線と和太鼓を楽しんでいただいた。演奏を間近に感じる事ができ、授業でも扱われていたタイミングもあって子どもたちの反応もよかった。 杜の学校は今年度から始めた企画で至学館大学の学生を中心とした杜チューターを新たに募集し、彼らのサポートを得ながら子どもたちを対象に実施している。 											

1回目はアートオブリストと絡めた企画を実施し、2回目は愛知の伝統野菜をテーマに座学、収穫、試食などを行った。講師の方の言葉が子どもたちにも届いているとよいと思う。

- ・3月実施予定のアローブミニコンサートはチラシのよさ、ショパンの名曲というテーマ、料金設定（100円）の影響かチケットの売れ行きがよく好評である。

〈意見交換〉

委員) ペーパーアート展はアーティストを招聘したのではなく、資料館職員によって行われたのか。

事務局) アーティストではなく職員であるが、非常にクオリティが高く、今後は企画展を行いたいと考えている。

委員) 趣味の入門講座はコロナ禍で実施が難しかったと思うが、各団体が実際実施できたのか詳細を知りたい。各団体から事務局に報告があると思うので、そのまとめの報告があるとよい。

事務局) 確認する。昨年は20件以上講座があったが、今回は16件となっているため、差分は開講を見送ったものだと思う。

委員) 各団体から事務局に報告するので、これからまとめると思う。が、まだまとまっていないと思う。昨年は20件以上あったが、今回は16件なので差分は今回開講を見送ったものだと思う。

委員) 歴史民俗資料館では昨年度から幅広いジャンルのものを取り上げており、とてもおもしろい。またアートオブリストではとても先鋭的な取り組みをしており、裾野を広げつつもキュレーターを入れ遠方の作家を招いて質の高いものとなっていた。ボランティアも意識の高い方が多く、内容としてとても充実したものであった。どういうふう to 実施されてこういった形になったのか教えていただきたい。

事務局) 愛三文化会館の大規模工事の影響で施設が使用できない時期にちょうどあいちトリエンナーレの関連事業であるモバイルトリエンナーレを実施した。その際他の事例を参考に、このような状況でもできる現代美術イベントとして開催したのが始まりであった。当初は市内にアトリエをもつ渡辺英司さんにキュレーターを務めていただきその後キュレーターを変え、今回は鈴木昭男さんを招聘することとなった。本来であれば昨年行うはずだったが、コロナの影響により本展を今年開催した。展覧会をとおして新たな美術関係者が発掘されたことやボランティアの方との出会いなどいろいろつながりができたこともひとつの成果になっている。

委員) 愛知県のイベントで「文化芸術まち歩きツアー」をやっているがアートオブリストの評判をここでも聞いているので紹介しておく。

(2) 令和4年度事業計画について

・資料No.2に基づき事務局説明

〈意見交換〉

委員) 「バイオリンの里大府をめざして」について具体的にどういったことの実現をめざしていくのか。

事務局) どういったことを実現するかということを含めて、今後検討していきたいと考えている。バイオリンについては文化分野だけでなく、産業など幅広い分野で進めており、今後の町づくりにつなげていく。

委員) アートオブリストについては私もその評判をよく耳にしている。現在は育み年をいれて2年に1回の開催となっているが、渡辺さんからはできれば作家たちの活躍の場としても毎年でもやっていきたいと聞いている。

助言者) 新しい企画も含め、幅広いことをたくさん行っていて感心する。来年はぜひ子ども歌舞伎をやりたい。

【今後のスケジュール】

令和4年度第1回大府市文化懇話会

令和4年5月～6月頃